

金沢大学国際基幹教育院外国語教育系・外国語教育部門 2021 年度活動記録

■事業日誌

3 月 28 日	第 102 回中国語検定試験
3 月 31 日-4 月 1 日	初習言語履修相談会
4 月 2 日	EAP Instructors' Welcome and Orientation
4 月 10 日	TOEIC Listening and Reading Test
6 月 20 日	実用フランス語技能検定試験（春季）1 次試験
7 月 13 日	スキルアップセンター第 1 回目 FD Jacob Runner
7 月 18 日	実用フランス語技能検定試験（春季）2 次試験
7 月 19 日	第 1 回 FD 研究会「EAP ワークショップ I」
8 月 3 日	第 2 回 FD 研究会 杉村安幾子「日本女子大学における初習外国語教育の現状と課題」
8 月 20 日・24 日	TOEIC 夏季集中講座（全 2 回）
10 月・11 月	金沢大学公開講座「各国シリーズ 冠婚葬祭ー儀礼から見る世界の文化ー」（全 6 回）
11 月 11 日	FD/SD 講演会 Klaus Mundt・Mike Groves “The abilities of machine translation and resulting implications for English for Academic Purposes”
11 月 21 日	実用フランス語技能検定試験（秋季）1 次試験
11 月 28 日	第 104 回中国語検定試験
12 月 6 日	ドイツ語技能検定試験
12 月 14-23 日	初習言語・EAP・TOEIC 準備科目授業見学 佐藤 朋子・小熊 猛・Mark Hammond・Lewis Murray・Dale Brown・趙 菁
1 月 23 日	実用フランス語技能検定試験（秋季）2 次試験
2 月	TOEIC Listening and Reading Test
2 月 16 日	第 3 回 FD 研究会 Jana Klacanska「ドイツ国際文化交流機関ゲーテ・インスティテュートのドイツ語教授法オンラインコース「Learning to Teach German」（DLL スタンダード）を受講して」
2 月 17 日	第 4 回 FD 研究会「EAP ワークショップ II」
2 月 18 日	春のフランス語ワークショップ

■FD/SD 講演会

11 月 11 日 “The abilities of machine translation and resulting implications for English for Academic Purposes” Speakers: Klaus Mundt (University of Nottingham) ・ Mike Groves (University of Surrey)

(参加人数 : 18 名)

The EAP Public Lecture of the year was given by Prof. Mundt, of the University of Nottingham, and Prof. Groves, of the University of Surrey, who have conducted research on online Machine Translation (MT) and its implications for language teaching. Prof. Groves began the lecture by illustrating the recent development of MT and how much it has improved in recent years. Following Prof. Groves' discussion, Prof. Mundt introduced their research findings regarding the views of academic staff on MT in the context of higher education in UK. One key finding is that universities have not yet established policies regarding students' use of MT, so there is a clear need for universities to address this issue. In the discussion following the lecture, Prof. Mundt and Prof. Groves also touched on how students make sense of MT and its implications for English for Academic Purposes in higher education. (Tomoaki Morikawa)

■FD 研究会

第 1 回 7 月 19 日 「EAP ワークショップ I」

(参加人数 : 14 名)

In the first EAP workshop of the year, which was held online, discussions were focused on ideas for teaching effectively in the COVID era. In the first part of the workshop, instructors were invited to share suggestions for different ways in which active learning can be encouraged even when interaction among students must remain limited. A wide range of ideas were shared and discussed among the participants. In the second part, an explanation was given of the university's new system for the emergency suspension of classes, and Professor Oyabu explained both the Ministry of Education and the university's own guidelines for hybrid-style teaching and online classes. The workshop concluded with a reflective discussion of the EAP I and EAP II courses and an opportunity for instructors to consult the EAP III and EAP IV course heads. (Dale Brown)

第 2 回 8 月 3 日 杉村安幾子 (日本女子大学文学部史学科 教授) 「日本女子大学における初習外国語教育の現状と課題」

(参加人数 : 10 名)

Zoom 開催の本 FD 研究会では、日本女子大学の初修外国語 (ドイツ語・フランス語・中国語・韓国語) のレベル設定から、クラスサイズ、学部学科別の卒業要件、直近 2 年の履修動向などをご紹介した。実際の日本女子大学における初修外国語教育は、多くの非常勤の先生方のご尽力によるところが大きい。基本的には真面目な気質の学生が多いことで、クラス運営や授業自体はかなり順調であるが、現時点の問題と感ずる部分を以下に 3 点挙げる。1 点目は 2020 年度に初めて導入した機械抽選によるトラブルである。2 点目は履修者が 5 名以下の場合、翌年度から当該科目を取り潰す悪名高き「5 名以下ルール」。3 点目が中上級クラス内のかなり深刻なレベルの格差問題である。上記 3 点について前任校の金沢大学での経験を振り返ると、1 点目は金大に一日の長があったと言え、2 点目はカリキュラム上、早急に改善を要する問題であろう。3 点目はおそらく大学を問わず、改善しようにもなかなか困難な課題に違いない。転出を経て、各大学の抱える問題は様々あれど、初修外国語教育については、学生のやる気を引き出す難しさはどこも同じであることを改めて感じた次第である。(杉村安幾子)

第 3 回 2 月 16 日 Jana Klacanska 「ドイツ国際文化交流機関ゲーテ・インスティテュートのドイツ語教授法オンラインコース「Learning to Teach German」(DLL スタンダード)を受講して」

(参加人数 : 10 名)

ドイツ連邦共和国の文化交流機関ゲーテ・インスティテュートが開発したドイツ語教授法オンラインコース Deutsch Lehren Lernen (DLL) Standard を受講し、その受講を通して得た知見について、ヤナ・クラチャンスカ助教が報告された。この教員養成コースは、最新の教授法専門知識に基づき、「外国語としてのドイツ語」を教えるための基礎的な知識と最新のメソッドを伝えるとともに、受講している教員のドイツ語教授法の知識を更新し、その専門知識をさらに深化させ、授業計画および授業運営能力を高めることを目標としている。DLL を受講している教員は学習者の能力に応じて、学

習者のモチベーションを維持できるように多様な授業をデザインできるようになる。クラチャンスカ助教の報告では、オンラインコースの概観だけでなく、実際クラチャンスカ助教が取り組んだタスクについて詳細な説明があった。このオンライン研修の主目的は、教室での対面授業の計画と実践の養成にあるが、受講者はオンラインを通じて研修に参加しているので、同時にオンライン授業に還元できる要素も学習できるとのことであった。クラチャンスカ助教から本学の授業や成績評価にも還元できる点が紹介され、報告後の質疑応答も活発に行われた。(早川文人)

第4回 2月17日 「EAPワークショップII」

(参加人数：12名)

The second EAP workshop of the year covered two matters. In the first part, each of the 2022 EAP course heads (Professor Runner for EAP I, Professor Murray for EAP II, Professor Morikawa for EAP III, and Professor Kanno for EAP IV) gave an explanation of the 2022 EAP courses, and there was some time for questions and discussion of issues related to each course. In the second part, there was a discussion of the grading of student assignments, for which a simulated piece of student writing prepared by Professor Murray was used. The workshop participants were divided into small groups and invited to discuss how they would apply the EAP IV essay grading criteria to the piece of writing. After some time for group discussion, all the participants reassembled and each group was invited to share some aspects of their discussion with the wider group. This led in turn to further discussion of various aspects of grading as well as consideration of the teaching of different aspects of writing. (Dale Brown)

■その他

■7月13日 Jacob Runner スキルアップセンター第1回目 FD 研修会

Jacob Runner represented the Foreign Language Division at this event and gave a talk on differences in academic and pedagogic practices in Japan, the US and the UK. This led to a broader discussion among attendees of differences in practices.

■教育開発事業

■4月2日 EAP Instructors' Welcome and Orientation

(参加人数：9名)

The EAP Committee held an informal online welcome event via Zoom which allowed instructors to drop in and meet the members of the EAP Course Management Committee, discuss the EAP courses and ask questions ahead of the new academic year. Since face-to-face classes were to resume after a year in which courses were almost exclusively conducted online, there were a number of questions about the practicalities of holding classes face-to-face once more and about the protocols that needed to be followed. (Dale Brown)

■12月14日～23日 佐藤 朋子・小熊 猛・Mark Hammond・Lewis Murray・Dale Brown・趙 菁 初習言語・EAP・TOEIC 準備科目授業見学

2021年度金沢大学国際基幹教育院外国教育系FD授業参観〔Class observation〕が2021年12月14日から12月23日まで実施した。以下の6人の教員が担当授業を公開した。参観者から授業改善に役に立ったとの声が多数寄せられた。

12月14日	佐藤朋子	フランス語 A4-2	参観者 6名
12月15日	小熊猛	TOEIC 準備 IV	参観者 6名
12月16日	Mark Hammond	TOEIC 準備 IV	参観者 4名
12月20日	Lewis Murray	EAP IV	参観者 7名
12月21日	Dale Brown	EAP IV	参観者 7名
12月23日	趙菁	中国語 A4-2	参観者 5名

(趙菁)



■学習支援事業

■TOEIC 集中講座

休み期間（夏季）に、学類 1 年生を対象に TOEIC 集中講座を実施した。実施日時および概要は以下の通り。

TOEIC 夏季集中講座

TOEIC Listening and Reading 対策講座《ちょっと上を目指す編》

TOEIC Listening and Reading 対策講座《入門編》

■春のフランス語ワークショップ

2022 年 2 月 18 日（金）に、アンスティテュ・フランセ関西教務部長ミカエル・ポワントクトー氏と同専任講師ノエリー・マンコン氏を講師に迎えて、フランス語のワークショップをオンラインで開催した。総勢 7 名（1 年生 3 名、2 年生 2 名、3 年生 1 名、博士課程の学生 1 名）が参加した。参加者は、第 1 部（11 時-13 時）では今フランスで人気の歌や映画、テレビドラマを、第 2 部（14 時-17 時）では現代の若者の生活を中心にフランスの文化や社会の諸相をそれぞれテーマにしたレクチャーを聞き、講師を交えてのアクティビティに取り組んだ。平時の学習の成果を生かしつつ、授業と異なる実際のコミュニケーションにより近い条件のもとでフランス（語圏）に関する知識を深める有意義な機会となった。参加者を対象として開催後に実施したアンケートでは、きわめて高い評価が得られた。

（佐藤朋子）

■ドイツ語文法教科書作成

本学のドイツ語を担当する教員でドイツ語 A1-1、A1-2、A3-1、A3-2 に対応した教材開発を行なった。[早川文人・佐藤文彦・西出佳代：ドイツ語いいじい？いいげんて！（Deutsch? Versuch's doch mal!）、朝日出版社、2022 年 1 月 30 日] なおヤナ・クラチャンスカ助教とティモ・テーレン講師が教材付録の音声データの収録を行なった。（早川文人）

■オンライン留学

【ドイツ語オンライン語学研修】

2021 年度は、人社学域の科目として、Q1 に「異文化体験実習 I（海外）（日独 tandem）」、Q2 に「異文化体験実習 I（海外）（ドイツ研修）」が実施された。前者はドイツ・デュッセルドルフ大学、後者はドイツ・レーゲンスブルク大学との間で行われたオンライン研修である。外国語教育系早川文人准教授、ヤナ・クラチャンスカ助教も参加し研修に協力した。（早川文人）

【フランス語オンライン語学研修】

例年実施していたオルレアン夏季短期研修に代わるオンライン研修を人社学域人文学類との協働で企画し、2021 年 6 月 1 日、6 月 4 日、12 月 7 日に学生向け説明会を実施した（外国語系教育系佐藤

朋子准教授が一部担当）。しかし、参加希望者が最少催行人数に満たなかったため開催を見送り、別の学習機会を上述の春のワークショップで提供した。

【中国語オンライン語学研修】

2021 年度は共通教育 GS 科目「異文化体験～中国語海外語学研修～」(人社学域の科目として「異文化体験実習Ⅰ(海外)(中国)」Q2、「異文化体験実習Ⅱ(海外)(中国)」Q3)が実施された。台湾師範大学国語教学センター主催による 3 週間のオンライン研修に、金沢大学から 4 名の学生が参加し研修を受けた。外国語教育系趙菁准教授が研修事前指導、研修中対応、研修後継続学習支援を主に担当した。(趙菁)

■検定試験関連事業

■TOEIC Listening and Reading Test

4月 TOEIC Listening and Reading Test は、2021 年 4 月 10 日（土）に対面で実施した。総合教育部の 1 年生 137 名が受験した。

2月 TOEIC Listening and Reading Test は、2022 年 2 月 14 日（月）、15 日（火）、21 日（月）、3 月 4 日（金）に対面で実施した。本学の 1 年生 1650 名が受験した。

■中国語検定試験

実質受験者数と合格者数(括弧内)

	準 4 級	4 級	3 級	2 級	合計
第 102 回(2021. 03. 28)	1 (1)	14 (11)	19 (14)	1 (1)	35 (27)
第 104 回(2021. 11. 28)	0 (0)	25 (21)	3 (2)	6 (1)	34 (24)

近年、金沢大学共通教育の中国語履修者数の増加に伴い、中国語検定試験の受験者数も年々増加傾向が見られる。それと同時に、中国語検定試験の合格率（特に 1 年生の 3 級合格率）もアップしている。

下に挙げた中国語検定試験の 2021 年、2019 年、2018 年の受験及び合格データ（3 月実施分）の比較からもわかるように、全体の合格率が大幅に伸び、特に 1 年生の中国語 3 級合格率が顕著に伸びている。本来、1 年間初級中国語を履修したレベルは中国語検定試験 4 級であり、3 級合格には、これまで少なくとも中国語 B を半年以上履修するか、それと同等の学習歴が必要であった。

1 年生の中国語検定試験受験者に見られたこの飛躍的なレベル達成には、二つの要因が考えられる。一つは、金沢大学共通教育のために独自に開発したペア・セット授業用の教科書によるものである。この教科書は、一般の教科書より難易度が高く設定されており、通常の使用では 4 級合格が想定されているが、努力次第で、1 年間での 3 級合格が可能となるように作成されている。教科書のこうした意図をよく理解した上で努力した履修者が増えたと言える。

もう一つの要因は、第 3Q と第 4Q に初級中国語 A と同時に開講している中国語充実クラスを積極的に履修する学生が増えていることである。大学で身につけた中国語能力を将来の仕事にいかしたい学生が、1 年次に外部試験においても中国語の学習成果を確実に出したいという動機で履修しており、このことが中国語検定試験の合格率に直接つながったと言える。

2022 年 3 月末に実施した第 105 回中国語検定試験では、申込者数が例年同時期から倍増して 70 名を超えた。合格率については来年度の報告になるが、これまでの合格率が中国語学習者・受験者のモチベーション向上にポジティブな刺激を与えたことは間違いないと考えられる。

【実質受験者数と合格者数(括弧内)】

第 102 回中国語検定金沢大学準会場検定結果 (2021.03.28)

	準 4 級	4 級	3 級	2 級	合計
1 年生受験者数	1 (1)	14 (11)	14 (11)		29 (23)
1 年生合格率	100%	79%	79%		79%
2 年生以上受験者数			5 (3)	1 (1)	6 (4)
2 年以上合格率			60%	100%	67%
				受験者数合計	35 (27)
				全体合格率	77%

第 97 回中国語検定金沢大学準会場検定結果 (2019.03.24)

	準 4 級	4 級	3 級	2 級	合計
1 年生受験者数		6 (6)	10 (2)		16 (8)
1 年生合格率		100%	20%		50%
2 年生以上受験者数		1 (1)	1 (1)	1 (1)	3 (3)
2 年以上合格率		100%	100%	100%	100%
				受験者数合計	19 (11)
				全体合格率	58%

第 94 回中国語検定金沢大学準会場検定結果 (2018.03.25)

	準 4 級	4 級	3 級	2 級	合計
1 年生受験者数			12 (2)		12 (2)
1 年生合格率			17%		17%
2 年生以上受験者数		3 (3)	8 (6)		11 (9)
2 年以上合格率		100%	75%		82%
				受験者数合計	23 (11)
				全体合格率	48%

(趙菁)

■実用フランス語技能検定試験、模擬試験（リスニング対策）

2021 年度、実用フランス語技能検定試験は例年通り 2 回開催された。春季は 2021 年 6 月 20 日（日）（1 級、2 級、準 2 級の 1 次試験合格者を対象とする 2 次試験は 7 月 18 日（日））、秋季は 11 月 21 日（日）（準 1 級、2 級、準 2 級の 1 次試験合格者を対象とする 2 次試験は 2022 年 1 月 23 日（日））に実施された。本学からは 3 名の教員が 2 次試験の運営に協力した。試験にさきだち、学内でリスニングの模試を企画したが、春季秋季ともに参加者はゼロだった。その要因としては、新型コロナウイルス感染者の発生にともなう一部の学類での登学停止措置のほか、開催を通知する手段上の障害や需要の低下などが考えられる。今後はひきつづき状況を観察しつつ、必要に応じて支援方法を再考する予定である。

本学からの実質受験者数と合格者数（括弧内）

	1 級	準 1 級	2 級	準 2 級	3 級	4 級	5 級	計
春季	0	実施なし	2	2	4 (3)	7 (7)	0	15 (11)
秋季	実施なし	0	3 (1)	9 (5)	4 (4)	17 (16)	1 (1)	34 (27)

（佐藤朋子）

■冬季ドイツ語技能検定試験、模擬試験（リスニング対策）

【ドイツ語技能検定試験】

冬季ドイツ語技能検定試験は、2021 年 12 月 5 日（日）、本学角間キャンパス総合教育講義棟で開催された。新型肺炎感染拡大状況下のため、受け入れ人数を制限し、感染予防に努めたうえ本学学生以外の受験者も受け入れて実施した。なお、この冬季試については、金沢大学角間キャンパス総合教育棟が北陸三県で唯一の実施会場であるため実施する意義は大きく、学内教員の協力を仰ぎながら今後も実施を続けていきたい。

会場責任者：早川文人 試験監督者：ヤナ・クラチャンスカ、佐藤文彦（人文学類）、ティモ・テレン（国際学類）

受験者数は以下の通り。（本学学生以外も含む。）

1 級	準 1 級	2 級	3 級	4 級	5 級	合計
2 名	7 名	13 名	18 名	15 名	6 名	61 名

【模擬試験（リスニング対策）】

2021 年 12 月 5 日（日）の冬季ドイツ語技能検定試験に先立ち、11 月 5 日（金）総合教育棟講義室 C6、C7 教室で、本学の 2 級、3 級、4 級の受験者を対象にリスニング練習を行った。2 級はクラチャンスカ教員が担当し、3・4 級は早川教員が担当した。2 級には 4 名、3・4 級には 4 名参加した。

（早川文人）

■社会貢献事業

■金沢大学公開講座「各国シリーズ 冠婚葬祭—儀礼から見る世界の文化—」

国際基幹教育院教員 5 名（趙菁准教授、早川文人准教授、ヤナ・クラチャンスカ助教、南相櫻教授、大藪加奈教授）及び人間社会研究域教員 1 名（入江浩司教授）

実施時期：2021 年 10 月 13 日～11 月 24 日実施（全 6 回）

本講座では、古今東西（中国、韓国、ドイツ、スロバキア、アイスランド、トルコ）の冠婚葬祭や年中行事の説明を通して、家族、地域、社会、そして自然、美について再認識し、市民とともに文化の価値と魅力を享受した。受講後のアンケートで、受講者から高い評価が得られたことが確認された。（趙菁）

■刊行物

■『初習言語ガイドブック』2022 年度版

■『EAP Teachers' Guide 2022』

■『EAP コース説明リーフレット』

■『TOEIC 準備コース説明リーフレット』

■『言語文化論叢』第 26 号

■『外国語教育フォーラム』第 16 号